

序

脳・神経疾患は、いったん発症すると不可逆的な変化を伴った後遺障害を有することが多く、その障害像は多彩で、しかも複雑である。そのため、リハビリテーション医療の対象として、これまで常に重要視されてきた。高齢人口が大きくなるほど、脳・神経疾患患者の数もまた増えることは必至であり、リハビリテーションの重要性はますます高くなると予想される。

脳・神経疾患には、その原因が不明なために根本的な治療の無いものもあり、症状の進行、あるいは増悪と緩解を繰り返しながら、慢性的に経過する疾患が少ない。したがって、こうした脳・神経疾患を有する患者に対しては、機能の回復を主眼とするのではなく、機能の維持を図るとともに、生活の質（QOL）を高めていくことが重要となる。そして、こうした脳・神経疾患に対するリハビリテーション医療に従事する者は、疾患の特性に関する十分な知識を持つことが不可欠であり、病態のメカニズムや一般的治療について最新の情報を得るように努めなければならない。

本書は、取り上げる脳・神経疾患の範囲を脊髄損傷や小児神経疾患にまで広げ、理学療法を中心としたリハビリテーションの進め方について解説した実践書である。幸いなことに、それぞれの分野で豊富な経験を持った先生方に執筆いただくことができ、それぞれの専門分野について、難解な内容をできるだけ平易に解説していただいた。なお、全体を通じて、平板な記載に終始するのではなく、図表を多用して、臨床的な示唆に富んだ解説を随所に付している点が本書の特長といえる。そして、リハビリテーションにおける実際の介入方法については、臨床的に行われている標準的な内容を詳細に紹介している。

本書の内容は、こうした脳・神経疾患のリハビリテーションに日々、従事している医師やセラピストはもとより、これからこの分野を学ぶ学生にとっても有用であると確信している。

最後に、本書の企画・出版にあたって、羊土社編集担当の皆様にご心よりお礼申し上げます。

2012年10月

潮見泰藏